

栃幼時報

題字／栃木県知事 福田富一氏

第100号

平成22年3月20日

(社)栃木県幼稚園連合会

〒320-0033 宇都宮市本町12-11 栃木会館2階

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／國吉真理子 ●発行人／石嶋 昇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



二十一年度を振り返って



栃幼連理事長 石嶋 昇

平成二十一年度はまさに激変の年となりました。幼児教育の重要性から、厳しい財政状況の中にあっても拡充され続けてきた県の幼稚園に対する助成金にも、財政健全化の名の下に削減のメスが入られました。

又、国政においても「幼児教育の無償化」の実現を目前に政権の交代となり、多年に渡り全国の団体組織として自民党政権を支持し、積極的に応援をしてきた幼稚園に対しては、二十二年度予算案において、幼稚園就園奨励費や運営費補助金等で、明らかに他の校種とは違う対応となっているように感じます。

できたことは、私利私欲のためでなく、子どもの幸せを第一に、幼稚園の目的である「子どもの心身の発達を助長する」ための環境整備に、最善と思える努力をしてきたことに他なりません。何も恥じることはないと思っています。

幸い、幼児教育の大切さ、子育て支援に対する考え方は、政権交代があっても大きく変わることはないようです。

子どもは国の宝です。今後の好転を信じ、幼子の健やかな成長のために努力を続けていかなければならないと思います。

今後も、私立幼稚園を取り巻く環

境は、大きな変革の連続、園児減や私学助成の削減等、激しい状況が続くことが予想されますが、先の「とちぎ未来開拓プログラム」試案に対する「行動力」や、厳しい環境を乗

二十一年度を振り返って



文書学事課長 植木 恵二

この一年を振り返りますと、一昨年全面的に改正された幼稚園教育要領が四月に施行されるなど、幼稚園教育を取り巻く環境が大きく変化した年であったといえます。

新たな要領では、学校教育の基礎としての幼児教育の位置付けや幼児期の子育て支援センターとしての役割が明確に規定されました。各園では、教育課程の見直しに取り組みされるとともに、預かり保育の充実や地域の子どもの遊び場提供など、教育環境の整備に努められたことと思います。

また、文部科学省の「今後の幼児教育の振興方策に関する研究会」では、すべての園児を対象に「幼児教育の無償化」に関する中間報告を五月に提言しました。公費負担や導入時期等について、引き続き検討していくなど、幼児教育への関心や期待は、さらに高まりま

り越え、滞ることなく事業を執行してきた「団結力」を持って、子ども達の明るい未来のため、大切な幼児教育を守るために頑張っていきたいと思います。

した。

一方、本県財政は、地方交付税の大幅な削減や経済危機などにより、来年度以降年間三百億円超の収支不足が見込まれるため、「とちぎ未来開拓プログラム」を十月に策定しました。今後は、県民の皆様からの御理解・御協力をいただきながら、内部努力の徹底など行財政全般にわたる取組を進め、この難局を乗り切っていきたいと考えております。

このような厳しい財政状況ではありますが、文書学事課では、二十一世紀を担う子どもたちが心豊かに生き生きと成長できますよう、引き続き私学教育の振興に取り組みで参りたいと考えております。私立幼稚園の皆様には、今後とも本県の幼児教育の振興に対し、さらなる御理解・御協力をお願い申し上げます。

百号記念特集

栃幼時報第一号を発行を振り返って



たから幼稚園 理事長 馬場章岳先生



昭和六十年は県内の全幼稚園が加盟した栃木県幼稚園連合会が発足した記念すべき年でした。

かつては一団体であった栃幼連でしたが、学法幼の一部が退会し新たな組織を結成しました。健全な幼児教育を目指した活動が二つの団体によってなされることは外部から見ると奇異に思うことであり、内部でも良識ある者にとっては疑問視されたことでした。

真の幼児教育を実現するためには、本来一体となつて取り組むべきものであります。

栃幼連、学法法の二団体が統一にむけての団体協議会を発足させましたが簡単に話は進行せず時間は経過するのみでした。

県や県議会の指導、助言を得て協議は進展し、やっと団体統一が合意に達し、細部の諸事項についても決着がつき、ついに総会で承認され栃全幼連が発足することになりました。

栃幼連に関する情報を提供し、実践

活動の内容を伝え、取り組むべき課題を提示し会員が共通理解と問題意識を共有する体制作りをしていくことが広報委員会の役割であるとの認識に立つて第一号の発行に意欲を燃やしました。第一号に掲載された県知事、県議会議長の祝辞に一体化した栃幼連への敬意と難しい局面におかれている栃幼連への支援協力を表明されましたのも統一されたことへの励ましであつたうと思ひます。

栃幼時報の第一号はその後の時報の発行につながる大事な機関誌になるので広報委員は協力し合い可能な限り各分野の記事を掲載いたしたく各関係者に執筆を依頼し編集を経て発行することができ安堵したことでした。

幼稚園の運営には難しい問題が山積しております。悩むことなく真剣に取り組んでいかねばなりません。また、本務である幼児教育に最善の努力をしてまいりたいと思っております。

政権が変わり長年の懸案だった幼保一元化も現実味を帯びてまいりました。適切な対応を切に願うものであります。

百号記念川柳大賞

 **大賞**

ねえねえママ！
あつまちがえたせんせいだ

ゆたか幼稚園

優秀賞

離乳食
家族みんなで口をあけ

茂木愛泉幼稚園

佳作

クリスマスイブの夜だけおりこうさん

栗の実幼稚園

かくれんぼ
見つけてほしいと出てくる子

愛隣幼稚園

ふくらんだ
ママのおなかもしあわせも

法得幼稚園

先生はどこでお仕事しているの？

萌丘幼稚園

何歳といつ聞かれても
増えぬ歳

平川幼稚園

ダイエットいつも覚悟は明日から

今市幼稚園

泥団子
庭のあちこち穴だらけ

いずみ幼稚園

怪我したと泣く子助けて膝ぶつけ

みふみ幼稚園

その笑顔見る度思う
たからもの

陽の丘幼稚園

雪だるま身体と頭 真黒だ

上河内幼稚園

子どものつばやき大賞



大賞

お母さんのツノもとれないかなあ

(こじか組からこりす組になる子ども達「角が取れて耳が生えてくるよ」の先生の言葉に怒りんぼのママのツノがとれたら…と)

きつれ川幼稚園

優秀賞

せんせい一人で行けなかったら僕がついていってあげようか?

(担任が「ちよつとおトイレ行つてきてもいい?」と子どもに聞いた時の気遣いのコメントでした)

山王幼稚園

おばあちゃんからお守り宅急便で届いたけど、お守りって神様からもらうんだよね

陽の丘幼稚園

おかあさん、いいんだよ。

ほくもだいすきだよ。よしよし

(イライラしてトイレに立てこもった母。思い直して息子を抱きしめたら息子からの一言でした)

みふみ幼稚園

氷鬼 凍っているはずが汗がタラタラ とけてくる

(氷鬼をしていて汗が出てきた時の一言)

上河内幼稚園

お母さん早く外に出て!!

(母 どうしてわたしが?)

さつき鬼は外って言ったでしょ

市貝たいよう幼稚園

佳作

だつて、なんかトマトにうつってるんだもん

(トマトをじつと見ているたつくん「なんでそんなに見ているの?」と聞いた)

真岡ひかり幼稚園

Kせんせいって、いつも飛行機でくるん?

(英語教室の外国人の先生はいつも飛行機に乗ってくると思っていました)

山王幼稚園

じゃ、今度はお年玉が貰えるようにサンタさんに頼んであげるね

(お年玉先生はもらったの?と聞かれ「もらわなかったなあ」と答えたら)

静和幼稚園

でもなりっぱだつたら絶対抱っこしてくるからやっぱ違うな

(あのサンタさんパパの匂いとおなじなんだけどなあ)

白鷺大学はくおう幼稚園

10年前かな?

(いつ行ったの?と聞いたら5歳の子がこう答えました)

黒磯幼稚園

3学期が終わったら4学期だね

足利短期大学附属幼稚園

先生、私のパパの名前知ってる?

”しゅじん”って言うの

栗の実幼稚園

せんせいのおなかに赤ちゃんいるんだね

(給食の後)

矢板幼稚園

参加賞

子どものつばやき大賞

今日は北風ふいてないね たんばさんでふいてたよ

(たんば組で北風と太陽の劇あそびをしていたの思い出して)

真岡ひかり幼稚園

愛の季節がやってきました

(籠の中のインコがくちばしをくつついていました)

真岡ひかり幼稚園

やっぱり子どもがいい感じ!

(子どもはクリスマスプレゼントがもらえて、大人にはサンタさんが来ないから)

静和幼稚園

先生! かわいい お嫁さんになれるね

(実は結婚しているのに。と思いがら子どもにありがとを言ふ私)

静和幼稚園

先生 あけましておめでとうございます子ども どうもありがとうございます

足利短期大学附属幼稚園

お空でトンボも組体操してるみたいだね先生かわいいからお化粧しなくていいよ

(この顔、お化粧した後だといえませんでした)

今市幼稚園

お日様が雲食べちゃった

(今日は青空でいい天気だね雲がぜんぜんないよ。に答えて)

今市幼稚園

先生 大森だから 大盛りにしてあげる

パパもママもお腹からうまれたのかな?

松が峰幼稚園

(絵本を読んで みんなもお腹の中から生まれたんだよと話した)

せんせい! せんせい! いいこと おもちゃついた

〇〇ちゃんのお口の中にバイキンのおうちがあったよ

栗の実幼稚園

「ほ」の数だけ食べるんだよ

(節分の日の給食の時)

七井幼稚園

先生の王子様は歩きだかなかなか来ないんだね

(シンデレラの絵本を見ている時ふと先生を見て)

きつれ川幼稚園

木が裸なんぼ。おようふくきてあげたいな

コブクロって手袋がちっちゃいこと?

たから幼稚園

おかえり!

(早く登園した子が後から来た子に向かって一言)

たから幼稚園

「あ! 虹!! お願いごと」また虹が見られますように!

ママ! ミミズさん5人もいた!

ドロだらけだからあらってあげた。

せんたくきにいれてあげた!

すくすくいになるね

(ミミズのミンチは貝事にすべての洗濯物の繊維にめり込んでいました)

みふみ幼稚園

参加賞

百鬼記念川柳大賞

お弁当 徐々に覚える 手抜き術

鬼ごっこ 走る足取り 空回り

鬼ごっこ 鬼が決まらず 時間切れ

友達を怒る姿はだれの真似

子どもから 優しさ教わるこの仕事

目が覚めてクマになりたい冬の朝

紙芝居見上げる瞳の美しさ

大丈夫ゆっくり大人になりましたよ

私のね特効薬はクラスの子

たのしいよ ともだちいっぱいようちえん

「かわいいね」子どもの言葉まに受ける

見上げる目 見つめ返せば心見え

子どもより本気になって走ってる

ブランコを押して二の腕ダイエット

たからものペットボトルのふたばかり

滑り台お尻がはまって滑れない

かくれんぼいつになったら見つかるの

キラヤ弁当食わずに眺める園児かな

運動会メタボ気にして下を向き

風の子が今は過保護で風邪の子に

物事をひとつ覚えるうれしさよ

振り向けば私は一人雪合戦

路の臺子らに踏まれて冬ごもり

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

陽の丘幼稚園

設置者・園長研修会 明日に向けて幼稚園の振興を考える

1月15日、ホテルニューイタヤを会場に新年恒例の設置者・園長研修会が開催された。125園で141名が参加し、今後の幼稚園振興について研鑽に励んだ。

理事長挨拶

石嶋 昇 理事長

①認定こども園 ②幼児教育の無償化 ③次世代育成支援対策推進法 ④学校教育三法の改正 ⑤「とちぎ未来開拓プログラム」試案への対応 ⑥衆議院議員選挙の対応 ⑦今後の振興活動（対県議会）について ⑧22年度予算案について ⑨人材確保に向けて（人材確保が難しくなっている）の各項目にしたがって、現状と今後の課題等を話された。



研修1 「幼稚園をめぐる現状と課題」

講師 栃木県経営管理部 文書学事課
副主幹 厚木 教明氏



平成22年度予算についてという事で、私立幼稚園に対する一般補助・特別補助の各予算額についての説明が行われた。連合会に対する補助金も5パーセント程度の削減見込みであった。県の財政も厳しい状況にあり、景気回復し税収アップするまで御理解頂きたいとの事で、全体的に大変厳しい数字が示された。

緊急環境整備事業費補助金については、園負担もあるが、積極的に利用頂きたいとの事であった。

また、今後は認定こども園の推進を図っていく方針であり、文部科学省・厚生労働省も対応の改善に向けて働いている旨の説明があり、研修会への参加依頼がなされた。

その他として、通園バスの安全確保の依頼があり、万一の際は「園バス事故報告書」を学事課宛提出する事。

研修2 「教員免許更新制について」

講師 栃木県教育委員会事務局教職員課
課長補佐 重田 恭一氏
主 査 松本 正氏

平成21年度より実施されている教員免許更新制について21年度の実施状況と22年度の予定についての説明が行われた。22年度開設される講習については2月末に通知されるとのことである。

「次年度の研修内容について」

講師 幼児教育センター センター長 増田真千子氏
指導主事 鈴木 智恵氏

平成22年度の幼児教育センターが実施予定の研修内容についての説明が行われた。22年度は幼稚園・保育所等パワーアップセミナー（仮称）が新設される予定である。



研修3 講演「今、求められる確かな幼稚園教育」

講師 ペネッセ次世代育成研究所 顧問 磯部 頼子氏



いかに社会が変化しようと、生きる力（自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動課題を解決する資質や能力等）の育成が必要である。

「環境」にいかに意図を持たせ魅力ある構成ができるかが教師の大切な役割である。

さらに、教師の共感の言葉かけも大きな援助になる。その為に教師は子ども達の心動かす体験を共感できる存在であるといよい。

落ち着かないクラスがあるとしたら、それは教師との信頼関係が希薄なのではないだろうか。先生やお友達との愛着が形成されていれば、落ち着くだろう。「あの子は〇〇だね」と決めつけず、子どもとの関係を見直そう。子ども達にとって、困ったり、悲しんだりする場面は非常に大切で、そのような状況からも気づきがあるので、教師がかかわり過ぎる援助をしていないか見直そう。

園内研修を充実させ、教師の資質の向上に努めよう。特に日々の子どもの様子を記録することで、教師の「子どもをみる目、感じる心、育む技」などの質をあげていくことが重要である。

講演「調査データから見る今の保護者と幼稚園」

講師 ペネッセ次世代育成研究所 研究員 真田美恵子氏

1997年、2003年、2008年の3回における調査を比較しながら、今の保護者の実態を報告していただいた。

子育て（しつけや教育）に熱心な母親が増えており、自分の生き方も大切だが、子育ても大切だと考えている母親が増加し、さまざまな方法でしつけや教育に関する情報を収集している。幼稚園の実態として、2歳児の受け入れや、未就園児の親子登園や預かり保育を行うなど、役割が拡大している。多くの園で子育て支援を行っており、園の経営上プラスになるなどの肯定的な見方もあるが、教職員の負担が大きいという懸念もある。



幼児教育センターだより

去る二月五日に、幼稚園教職十年経験者研修が修了し、本年度の主な事業が終わりました。
 各研修や調査研究等の事業への御協力ありがとうございました。

教育課程は編成できましたか。

さて、本年度から、新しい幼稚園教育要領が全面实施となりました。

みなさんの幼稚園では、新しい教育課程が編成されたことと思います。

そして、現在は、保育を実践しながら、あるいは話し合いをもちながら新しい教育課程に基づいた指導計画を改善しているところではないでしょうか。

昨年、幼児教育センターでは、「幼稚園教育課程編成の手引」を作成、配布いたしました。

この手引は、教育課程の改善や、指導計画の作成にも役立ちますので、ぜひ御活用ください。幼児教育センターホームページからもダウンロード可能です。

また、「幼稚園幼児指導要録記入の手引」も作成し、昨年六月に配布させていただきました。

教育要領の改訂に伴い、平成二十一年一月に新しい指導要録の様式が文部科学省より示されましたので、手引を参考に作成いただきましたようお願いいたします。

平成二十一年度幼稚園教職十年経験者研修が修了しました。

平成二十一年度幼稚園教職十年経験者研修の修了者三十七名をご紹介します。

さくらんぼ幼稚園	薄井 祥代
中鶴田幼稚園	佐藤有美子
山王幼稚園	地明 真希
すずめ幼稚園	柏崎 有紀
八幡台幼稚園	川上 靖恭
柿の木幼稚園	横倉 恵子
清原ミドリ幼稚園	小堀 順子
釜井台幼稚園	鈴木 直子
真岡さくら幼稚園	塩野谷久子
たから幼稚園	内川かおる
矢場川幼稚園	阿部 恵子
足利こぼと幼稚園	岩澤久美子
足利さくら幼稚園	人見 将之
育成館幼稚園	齋川喜代美
旗川幼稚園	森田 敦子
明星幼稚園	山口久美子
おおみや幼稚園	加藤美由紀
しずわでら幼稚園	門間 利恵
岩舟幼稚園	清水 朋子
ひまわり幼稚園	石崎 泰美

のぶしま幼稚園
 第二薬師寺幼稚園
 いずみ幼稚園
 仁神堂幼稚園
 氏家幼稚園
 高根沢第二幼稚園
 きつれ川幼稚園
 すみれ幼稚園
 かしわ幼稚園
 塩谷幼稚園
 西那須野幼稚園
 黒羽幼稚園
 虹ヶ丘幼稚園
 マロニエ幼稚園
 ふたば幼稚園
 ひかり幼稚園

根本 美恵
古賀 洋子
本田 美幸
羽山 育美
饗庭 百子
南木美奈子
阿久津美樹
野口 幸緒
江尻富美子
大久保美文
和氣 麻美
室井 幸子
手塚八千代
松浦 美香
藤田 真澄
山口加奈子
杉田 絵理

(敬称略)

修了おめでとございます。
 閉講式では、総合教育センター次長より修了証が一人一人に授与されました。
 一年間御苦労様でした。



平成二十二年より新しい研修を開催いたします。

幼児教育センターでは、来年度より「幼稚園・保育所等パワーアップセミナー」を開催いたします。これは、園長や主任等の先生方に、保護者の教育力向上を支援するための手法を再確認していただく研修です。

国の動きや先進園の取組の紹介、講話や演習などを行います。幼稚園が地域の幼児教育の中核的施設としてその専門性を更に発揮していただきたいと考えております。

ぜひ、参加していただきますようお願いいたします。

保育・教育アドバイザーを派遣いたします

「教育課程を改善したい」
 「こどもたちに科学遊びを提案してほしい」
 「保護者に参加型のセミナーを実施してほしい」
 など、様々なご要望にお応えしています。
 ぜひ、ご活用ください。



研修会だより

(財)全日私立幼稚園幼児教育研究機構
全日私幼連全国研究研修担当会議

日時 平成二十二年一月二十二日・二十三日
会場 京都私学会館
参加人数 百二十名

一日目(二十一日)
平成二十二年・二十三年 教育
研究課題について

委員会として推進する五つの
重点事項報告があった。特に幼
児教育実践学会を立ち上げるに
あたって、保育の資質向上を高
める生きた研修を考えていると
いう話であった。

・「学校関係者評価」・私立幼稚園
における学校関係者評価について
保育の振り返りの手がかりと
して必要であり、子どもの豊か
な育ちに繋がるとよいという話
であった。

・「教員免許更新制」・平成二十一
年度・本財団が実施した免許更
新講習について
十年目研修を基にして、グ
レードアップする方式で提案し、
発展的見直しの方向である。

●全体協議では、保育者としての
資質向上研修俯瞰図等について
の情報交換やアンケートについ
ての回答があった。

二日目(二十二日)

「幼児教育実践学会」(ブレ開催)

発表一 大阪府

〈みんなでつくったリレーのグループ〉

発表二 愛知県

〈五歳児が幼稚園で教育をうけること
の望み〉

発表三 福岡県

〈三・四・五・歳児について考える〉

●メイキング・オブ・研修では、映
像を使いながら研修のメイキング
について学んだ。



青年部合宿研修会

日時 平成二十二年一月二十九・三十日
会場 宇都宮ホテルニューイタヤ他
参加人数 二十五名

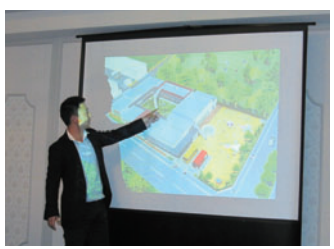
青年部にとって合宿研修は情
報・意見交換はもちろん、部とし
ての一体感を高める貴重な事業と
言える、世代交代の時期にあり、
部員減少の中にあっても確実に若

い世代の成長を実感する二日間であ
った。

一日目

株式会社日比野設計「幼児の城」
ブランド運営責任者の日比野拓氏
より『次世代の園舎・園庭を考え
る』と題した講演、続いて栃木市
を拠点とし人材育成の研修、講演
を全国レベルで展開する
Gardenzoneの浅見広明氏による
セミナー形式のご講演をいただい
た。

これからの時代にふさわしい園
舎・園庭の設計、「ZONを育てる
事は真のリーダーとなること」と
いうリーダーシップに関する講演
の組み合わせはバランスもよく充
実した内容で、ハード・ソフト両
面において多くの学びや気
づきを得る事が出来た。ま
た、その後の
懇談会にも両
氏に同席して
いただき交流
を深めた。



二日目

宇都宮市の多世代交流施設「ゆ
うあいひろば」と、「妖精美術館」
の視察を行い見識を深めた。

第5回 資質向上選抜養成講座V

日時 平成二十二年一月二十三日(土)
会場 コンセーレ小ホール
参加人数 五十一名

演習「豊かな表現力を育むために」

講師 宇都宮大学附属幼稚園

グループ討議を行い、アン
ケートの結果や今までの研修を
踏まえ意見を出し合った。

講義「反応性愛着障害と発達障害」

講師 国際医療福祉大クリニック

言語聴覚センター

臨床心理士 小林 順子氏

現場の話を交え具体的な話を
伺った。

講義「環境への興味と関わり方の
発達」

講師 千葉経済大学短期大学部

講師 松田 清美氏

環境の重要性についてお話を
いただいた。

本年度は五十
五名の先生方が
受講を修了した。



平成22年度私立幼稚園関係予算案

(単位：千円)

事業名	平成21年度 予算額	平成22年度 予算額(案)	概要
1 幼稚園運営費補助金	5,771,977	5,754,126	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児一人当たり 178,500円 (H21 178,500円) 対象人数 30,454人 (うち満3歳児分 318,087千円 (H21 302,915千円) 対象人数 1,782人)
2 幼稚園教材費等補助金	52,512	48,563	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児一人当たり 39,100円 (H21 39,100円) 対象人数 1,185人 (うち満3歳児分 2,229千円 (H21 1,955千円) 対象人数 57人)
3 幼稚園地域子育て推進事業費補助金	321,410	314,290	
(1) 子育てランド事業	68,450	59,930	幼稚園が実施する①～⑤の事業に対する助成 ① 子ども遊び場確保事業 ア 園地・園舎開放事業 イ 放課後児童クラブ事業 ② 未就園児親子教室事業 ③ 幼児教育に関する各種講座開催事業 ④ 地域の子育てに関する支援情報提供・紹介事業 ⑤ その他市町が定める子育て支援事業のうち、知事が適当と認めるもの A 上記事業のうち2事業実施 1園当たり 220千円 (市町220千円以上の補助が条件) B 上記事業のうち3事業実施 1園当たり 350千円 (市町350千円以上の補助が条件)
(2) わんぱく保育推進事業	252,960	254,360	幼稚園が実施する①～④の預かり保育事業に対する助成 ① 預かり保育 (通常分) 1園当たり 800千円、1,200千円、1,600千円 ② 特定預かり保育 (4時間超) 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ③ 長期休業日預かり保育 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ④ 休業日預かり保育 1園当たり 300千円、480千円、660千円
4 幼稚園第二子等保育料減免事業費補助金	44,424	45,824	幼稚園に同時に二人以上在園する場合に保護者が負担する保育料に対する助成 第一子に対して、第二子は1/2に、第三子以降は1/10に軽減
5 幼稚園特別支援教育費補助金	240,296	268,128	特別支援を要する園児が就園する幼稚園に対し、その経費の一部を助成 対象園児一人当たり 学法二人以上 784千円 (H21 784千円) 上記以外 392千円 (H21 392千円)
6 私立幼稚園教職員退職金財団補助金	182,384	153,143	掛金について、教職員標準給与額の27/1000を補助(対象者2,230人)
7 幼稚園緊急環境整備事業費	0	126,761	遊具等環境整備及びデジタルテレビ等整備に対する助成、並びに認定こども園における研修支援(学校法人立) ① 遊具等(補助率:認定こども園1/2、左記以外1/3) ② デジタルテレビ等(補助率1/2) ③ 研修支援(補助率1/2)
8 私立学校教職員共済補助金	51,175	51,561	長期掛金について、教職員標準給与額の8/1000を補助(対象者2,450人)
9 幼稚園子育て支援施設整備事業補助金	10,000	0	子育て支援事業等実施に係る園舎増改築、改修事業に対する助成(学校法人立) 補助率1/3以内、補助金上限5,000千円 平成22年度廃止
合 計	6,674,178	6,762,396	

22年度予算要望の内容について

22年度県予算につきましては、昨年度の「とちぎ未来開拓プログラム」の決定に伴い、上記のとおりその内容が示されました。当初心配された削減案も、会員の皆様の署名活動をはじめ「幼児教育を支援する議員の会」や関係各位のご支援、ご協力によりまして急激な減額は避けることができました。あらためて御礼申し上げます。しかし、政権交代に伴う動きとしてこども手当導入による影響、とりわけ幼稚園就園奨励費補助金の低所得者層への重点化が図られる一方で、園児保護者の約6割を占めるといわれる第4階層への補助単価が大幅な減額になるなど幼稚園振興にとりまして大変厳しい状況も生まれております。

県幼連といたしましても、引き続き全日私幼連との連携を深め、研究や運動を重ねていく所存ですが、会員の皆様方におかれましても保護者や地域の方々のご理解とご支援をいただく中でさらなるご協力をお願い申し上げます。

振興委員長 磯 行雄

学事だより

県文書学事課

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金(全体分)

補助金実績報告書の県への提出期限は平成二十二年五月七日(金)です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに平成二十一年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、追加提出されるようお願いいたします。

●幼稚園教材費等補助金(全体分)

補助金実績報告書の県への提出期限は平成二十二年四月二十三日(金)です。

●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金特別補助(わんぱく保育推進事業・子育てファンド事業分)

事業実施報告書の県への提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てファンド事業ともに平成二十二年四月二日(金)です。

●幼稚園緊急環境整備事業費補助金

補助金実績報告書の県への提出期限は平成二十二年三月十九日(金)です。

●平成二十一年度決算書及び平成二十二年度予算書の提出について

提出依頼書とは別に決算書の標準様式をメールでお送りしますので、様式に

則って作成してください。予算書も決算書標準様式と同様に作成してください。提出期限は決算書、予算書ともに平成二十二年八月三十日(水)です。

●資産総額の変更登記届

平成二十一年度決算に伴う資産総額の変更登記は、平成二十二年五月末日までに済ませ、速やかに変更登記届を県に提出してください。

各種提出書類の詳細については、別途送付している通知文を参照のうえ、期限内の提出をお願いします。

学校基礎調査ヒアリング(園児数確認)の実施について

例年実施している学校基礎調査ヒアリング(園児数確認)を実施します。実施日程については、平成二十二年五月十日(月)から十四日(金)の五日間を予定しています。詳細については、別途通知いたしますが、担当者の出席について御協力をお願いします。

交通安全物差し贈られる

日時 平成二十二年二月一日
場所 JA共済連県本部

今春小学校に入学する県内幼稚園児にアクリル製一五センチの物差しが贈られた。見る角度を変えると「じいちゃん、そんないち、うれしいな」の交通安全メッセージが浮かび上がる。石嶋理事長が田崎本部長から

二百四幼稚園約一万千五百人分の目録を受け取った。



平成二十二年四月、六月までの事業予定

4月2日	新規採用幼稚園教諭研修集合研修
5月12日	栃幼連 通常総会(21年度決算総会)
5月13日	※幼・保・小連携研修
5月24日	※10年経験者研修
6月3日	※地区別合同研修(幼・保・小)
6月4日	※地区別合同研修(幼・保・小)
6月8日	保育テクニカル講座
6月9日	※トップセミナー
6月11日	※幼・保・小教職員相互職場体験研修(事前説明会)
6月15日	設置者・園長研修会
6月17日	新採研 公開保育(宇大附属幼稚園)
6月22日	新採研 公開保育(宇大附属幼稚園)
6月25日	※地区別合同研修(幼・保・小) ※は幼児教育センター事業

訃報

●大田原市 岩舟台幼稚園
元園長 郡司 美江子 先生
平成二十二年二月二十日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

現在の栃幼時報が昭和六十年に創刊されて以来、今号で第百号目を迎えた。(正確には、前の組織において昭和三十年から昭和五十九年にかけて第百二十号まで発行されていた経緯があるが)いわゆる現在の「栃幼連」は、昭和四十八年頃に運動方針などをめぐり分裂し、後に大同団結し再スタートしたのが昭和六十年、今から四半世紀前と伺っている。その当時の、団体の再スタートにあたる新たな栃幼時報第一号の発行から今号で百号を迎えたということである。

そして、第一号の発行にあたられた当時の広報委員長、現たから幼稚園理事長の馬場章岳先生に原稿執筆の労をおかけした、当時をご回想いただいた。先生ご記載のとおり、当時は統一を遂げたばかりであり団体として安定した状況とは言い難く、いかに組織として幼児教育の将来像を描きその振興と充実に向けた活動を構築していくかという難しい出発であったことは容易に想像できる。

『栃幼連に関する情報を提供し、実践活動の内容を伝え、取り組むべき課題を提示し会員が共通理解と問題意識を共有する体制作りをしていくことが広報委員会の役割である……』という先生の当時の思いは、幼保の一元化論議や社会経済情勢の悪化など幼稚園を取り巻く今の様子を考えた場合、何ら変わるどころか、むしろ重要度は増すばかりである。真摯にその役割を再認識し百一号目に引き継ぎたい。